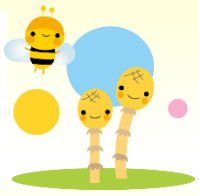
南砺市教育センター研修会報告①　　平成 30 年 4 月 18 日発行

教育センター研修だより



栽培学習指導法研修会

下記のとおり、砺波地区の保認幼、小中学校教職員を対象に栽培学習指導法研修会を実施しました。

1	日　時	平成30年４月11日（水）　15：45～16：40
2	会　場	井波庁舎　３階　多目的ホール
3	講　師	金沢大学　教職大学院　教職実践研究科 教授　松本　謙一　先生
4	参加者	南砺市　17名 砺波市・小矢部市　41名　合計58名
5	内　容	栽培学習を通して子供の学びを確かにする指導内容、指導法

【研修の概要（二つの視点から）】

課題提示・子供への問いかけ

- 授業の最初に、子供たちに「〇〇を育てよう」と提示する。その次の投げかけとして、次の二つある。先生方は、どちらを選ぶか。

ア：「君たちは、何を育てたい」と問い、子供たちに自由に発言させる。

イ：「これからみんなと、『アサガオ』を育てていこう」と投げかける。

- これが、体育科の学習だと考えた場合、分かりやすい。教師が「これから体育で何をしたい」と問い、子供たちが「野球」「バスケットボール」「サッカー」等と応えたとする。そこで、教師が「では、これからの体育はダンスをします」と言ったとすると、子供たちはどう思うだろうか。
- ここで大切なことは、「**子供たちが選択することが可能であること**」「**子供たちが選択するだけの根拠を明確に言えること**」である。このように考えると、**教師が学習内容やねらいを事前に決めていた場合、イのように、明確に教師から投げかける**のがよい。
- 教師から投げかける際に、留意することがある。アサガオの種を植えるとき、これまでだったら、教師が「アサガオの種を〇つ植えましょう」と言って、子供たちは教師の言われるようにしていた。しかし、それでは子供は成長しない。大切なことは、**子供が願いをもち、「自分で決定する」**

ことを保障することである。例えば、教師が「みんな、どんな種を植えたいかな」と問うことで、子供は「家にある種を持ってきたいな」「ピンクの花が咲く種を植えたいな」などの願いをもつ。願いを達成する方法の一つとして、種の数を決めていく。**教師が一人一人の思いをどうやって子供にとって価値あるものに転化させるか**、これが、教師の大切な仕事である。

子供が自分の願いをもって取り組む重要性

- 子供がアサガオを育て、結果、アサガオが大きく育たなかったとする。しかし、子供の満足度は高い。そして、単元終了時には、「アサガオの種を自分で選んだこと」「アサガオの種を植える場所を自分で選んだこと」「間引きを自分の判断で行ったこと」等の活動が印象に残る。これは、ある小学校での調査から得られた結果である。なぜ、このような状況が起きるのだろう。
- これは、**子供が明確に自分の願いをもち、その願いに沿って活動を行ってきた**からである。子供にとって、**自己決定の繰り返しによる問題解決が成立している**のである。アサガオの生長に関しては失敗だったかもしれないが、**子供が自分で責任をもって決め、自分の鉢に愛着をもって関わってきたときには、たとえ結果が思うようにならなくとも、疑問を解決するという力や自己有用感等が得られる**。
- 反対に、アサガオが育ってきれいな花を咲かせたとする。しかし、子供がやらされながら活動をしている場合、「芽の形の違い」「葉の形の違い」等の知的な部分さえ印象に残らないことが、結果から得られている。**やらされている活動は、学びとして子供には何も残らない**のである。

【ご参加いただいた方々の感想】

子供たちに自分の願いをもつよう働きかけ、プロセスを大切にすることの大切さを改めて感じた。教師自身が願いをもち、「やらせ」とならない活動となるようにしたい。

何でも、子供たちに「何をしたい」と聞いたり、決めさせたりすることがよいと思っていた。しかし、そうではなく、自由に決めさせてよいものと、こちらが決めておく必要があるものとがあり、こちらが決めておくことには、しっかりと意味をもつことの大切さを学んだ。

子供に種を選ばせるところから、子供の願いを大切にすることが、とても心に残った。子供たちの満足度も、どれだけ自由に子供が考えることができたかが大きく影響しており、教え込むような授業では、子供たちの満足度がなかなか得られないと確信した。

自由に決めさせるといっても、何でも自由にしてよいわけでなく、理由があって、教師が伝えていかなければならないこともある。事前にもっと教材研究をしなければならないと、強く感じた。